

NPO いきいきまちだ 15 周年記念文集

15周年を祝す

向井 弘善

「NPOいきいきまちだ」との出会いから 黒田大三郎

15周年を迎えて

佐々布光男

いきいきまちだ十五周年を迎えて

稲垣千枝子

雑 感

寺西 俊英

15周年を祝す

向井弘善

この5月30日でNPOいきいきまちだは設立(登記)後15年を迎えることになります。「自然も生きいき人も生きいき」をモットーに、人と自然、人と人の交流による健康増進を目的とした地味なNPOがここまで長続きしてきたことを祝すとともに会員や関係者の皆様に感謝したいと思います。

今でこそ「いきいき・・・」という言葉があふれていて珍しくも何ともありませんが設立当初はいきいきまちだという名前は新鮮で躍動感のある良いネーミングだと思いました。振り返れば色々なことが思い浮かびますが第1に残念なのは、私たちの活動の原点である“繁茂する竹を伐採して竹炭を作る”という活動が2013年を最後に出来なくなってしまったことです。2002年NPO取得以前から石阪竹林の炭焼き窯を継承してから竹炭づくりを始め、2007年に小山田に新しい窯を新設し、何百本もの竹を伐採、下処理、窯入れ、火入れ、窯出しなどの作業に汗したことを懐かしく思い起こします。今でも竹細工のための竹を切る機会がありますが、太い孟宗竹に対峙するときにはかぐや姫に会えるのではないかと新鮮なわくわく感に襲われます。

活動内容では子ども達とのかかわりがあります。当初から子ども自然観察会、伝統文化子ども教室の活動を引き継ぎ、小学校の竹細工教室、幼稚園や保育園のパンづくり支援、囲碁・将棋教室へとつながっています。

活動資金の調達には苦勞しました。竹炭の販売、埋蔵文化財関係調査資料の整理業務、団地植栽調査など思い出します。町田市から竹の伐採や公園の植栽管理などの受託に加え国の雇用促進事業の一環で雨水排水清掃業務という大型案件を受託したころから安定してきました。

2013年の10周年に記念誌の発行、記念旅行、陸前高田・福島への復興支援、事務所の開設と新事業の立ち上げを行いました。

現在の木曾事務所の開所式を行ったのは同年5月18日です。それ以来新事業の展開に欠かせないものとして高齢者の憩いの場、ふれあいサロン、料理教室、麻雀教室、マッサージ、諸会議場などに活用しています。

現在の日本は超高齢社会といわれていますが、いきいきまちだも高齢化が進み平均年齢は75歳を超えているのではないかと思います。将に後期高齢者の集団であり私たちの活動そのものが社会参加の見本であり高齢社会の実験場の意味合いを持っています。

従って、私たちが進めている高齢者の憩いの場としての諸活動は大変有意義なものと思われます。同時に、少子化が危惧されている中、将来を担う子ども達を育てる活動は重要であり今後益々充実していく必要があると考えられます。

「NPOいきいきまちだ」との出会いから

黒田 大三郎

「NPO いきいきまちだ」との出会いから今年が丁度10年目となりました。退職後の平成19年シルバー人材センターに登録し、20年の春から「学校管理」の話をいただき本町田小学校に勤務し、そこで藤井さん・齋藤さんと出会い「NPO いきいきまちだ」を知り、石坂竹林整備の活動に参加したのがスタートで今日に至っています。

その間

- ・子供教室では、年間を通して見学・ものづくり・遊びなど多面で子供たちと触れ合え、
- ・山崎小・函師小・忠生小・町田第5小学校での竹細工教室の指導では孫年代と触れ合い
- ・自然幼稚園では、パン焼き体験の手伝い、と、多くの子供と触れ合うことで、子供たちから若々しい息吹と活力をもらった。

他面

- ・三つ目山公園の除草整備作業（6月、8月、10月）、毎年恒例となり、暑さの中で老体に鞭打ち汗をかきながら体を鍛え若返りを期待し、併せて小遣いが頂けた。
- ・市内数百の公園の整備・清掃作業 真冬の寒い中、町田市内全域を地図とにらめっこで公園探しから始まり、大小のU字構の清掃・周辺除草作業、こうした作業は年金生活者にとって健康維持と共に有難い小遣い稼ぎもできた。
- ・石坂竹林、古賀竹林の整備作業（時期に筍堀りの魅力もありました）
- ・ホテルの里づくり田中谷戸の小川周辺の除草整備・・・（途中で頓挫は残念）
- ・桜祭りの出店・麻雀教室・カーリンコン・吹き矢などなど・・・暮恒例の餅つき大会は近隣の皆さんも大勢参加されるようになり、ことのほか楽しみなイベントなど etc・・・

振り返ってみれば、退職後の自分にとり、「NPOいきいきまちだ」に所属できたことは大勢と共に活動が出来、楽しめ、心身共に老化防止にもなり、ホントに有難いことと感謝あるのみです。

生い先も少なくなってきた昨今、自分の現状をキープしながら、より長く楽しむ為にも今後も活動には積極的に参加できる事を願っています。

15周年を迎えて

佐々布 光男

今年で「NPOいきいきまちだ」が設立以来15年を迎え、今日なお活発に活動が続いていることは偏に会員皆さまの常日頃の積極的なご協力とご努力は言うまでもありません。特に、設立当初から今日まで変わらぬ情熱をもって骨身おしまずNPOの活動を支え運営に携わってこられた向井会長、田中副会長などの並々ならない尽力なしには語りつくすことができないでしょう。

顧みればNPO設立までの準備段階にも結構日数を要し、この頃から今でも行われている竹藪の伐採など環境保全に重きを置き、町田市などと連携のもと、当時はまだ私たちが若く、和気あいあいと活発に活動し、立派な竹炭の焼き窯も会員のもとで作上げ、その竹炭はいろいろな使い方があり各方面で好評であったことなどが走馬灯のように思い出されます。

当初から皆さまとともに良き仲間として、時には力となり、ご助言ご指導を頂き活動に参加できたことは誠に誇りに思っています。

今までNPOが携わってきたものは、竹の伐採や公園の環境整備、子ども達と竹細工作成やそうめん流し、その他の遊び、健康に関する各種講座の開設、さくら祭りの出店、野菜の栽培、囲碁・麻雀教室、その他非常に多岐にわたる活動を展開し、その活動が15年も元気に今日まで続いてきたのも会長・副会長のNPOに対する一方ならない思いが、ここまで元気に活動が続き、私たちが気持ちよく実に和やかに活動を続けてこられた大きな要因だと思われまます。

また、最大の楽しみは、NPOの活動は勿論、それに伴う飲み会、一泊の旅行、餅つき、畑でのバーベキュー、タケノコ刈りなどを通しての親睦が私たちのなによりの楽しみであり、現在でも非常に好評で、毎回多数の参加が続いており、各人の明日への鋭気の養いに多に貢献しているのではとされています。

現在会員の多くは高齢期を迎え、これからは今までのような活動が段々と望めない状況となりつつあるのが現状ですが、私たちにとっては心おきなく皆さまと共に活動し、また楽しみの所であり、無理をせずになりの親睦を深める場所としてNPOは大きな生活の一部と位置しております。これからは活動内容も室内競技（たとえば吹き矢など）などを取り入れ、見直すところは見直し、皆さま協力のもとできるだけ長く存続できるよう切に望んでいるところです。

いきいきまちだ十五周年を迎えて

稲垣 千枝子

「人とのつながりが長寿につながる」という話をラジオで耳にしました。いきいきまちだのこれからのびったりだと思いました。私は入会して七、八年になります。

きっかけは向井会長と市が募集していた観光案内人講座でお会いしたことです。町田市の歴史もよくわからない私もあの頃は仕事はかけ持ちで、身体もまだまだ元気で好奇心もいっぱいでした。

そんな私も高齢者の仲間入りの年代になり、今までのがんばりがあちこちに出てきました。

最近の関心はもっぱら健康寿命を伸ばすこと、そして身体に良い食生活になってきています。

いきいきまちだの当初の活動目標も少しずつ変わってきていると感じます。

これからは住む地域も違ってふるさとそれぞれの会員が仲良く大切な時間を共有して楽しい時間を過ごしていけたらと思っています。

私は何かと所用がありすべて参加はなかなか出来ませんが、男の料理教室（男とはなっていますが女性もどうぞということ）そして近場の無理のないウォーキングに期待しています。

私も貝原益軒の「養生訓」を参考に元気な皆さんとこれからもつかず離れずの心持ちで、のんびりゆったりと楽しく過ごしたいと思っています。よろしく願います。

雑 感

寺西 俊英

私は、「いきいきまちだ」に入会してまだ1年半くらいしか経っていません。15年間の歴史は知りませんので、思いつくままに書かせていただく事といたしました。入会時に設立の趣意書を読みましたが、理念の素晴らしさに入会してよかったとの感を強くしました。

私が参加した活動で記憶に残るのが、まず自然幼稚園のパン焼きイベントです。将来日本を支えてくれるであろう子供たちの嬉々とした笑い声や美味しそうに食べる姿を思い出します。今後とも是非続けてほしいと思います。次に三つ目山の除草作業です。広大な面積なので機械の力を借りますが、一昨年生まれて初めて草刈機を扱いました。最初は上手く行きませんでした。周囲の仲間に教えていただき何とかこなせるようになりました。膝上まで伸びた草を刈り取ると、小鳥たちがどこからともなく来て虫を啄み、また親子連れが遊びに来られるのを見ると、充実感に満たされます。どこに巣があるのかキジまでやってきました。お餅つきや鏡開きも甘党の私とすれば、うれしい行事でした。近所の子供たちやお母さんも一緒に楽しむのはとてもいいことですし、近年は餅つきを知らない子供が多い中で素晴らしい取り組みです。

この原稿を書いた日の3月12日の新聞を見てこんなことが頭をよぎりました。ご承知の通り東日本大震災が発生した翌日です。あの時から7年経ちましたが我々で何かお手伝いすることは無いのかな、とも思いました。新聞には陸前高田市の戸羽市長が町田市出身の縁で、11日当日鶴川駅近くの「ポプリホール鶴川」でチャリティーコンサートが開かれたと出ていました。我々も三陸地方を回って、現地の被災された方々と話し合うのもよし、現地のお土産物を買うのもよし、と思いました。

勝手なことも書きましたが、これからも「いきいきまちだ」が記憶に残る活動をされるお手伝いを微力ながらさせて頂こうと思っております。

(以 上)